

令和元年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 胆振地区
- 2 事例報告学校名 : 室蘭市立喜門岱小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 栗田 真
- 4 キーワード : 地区の活性化はPTAから

1 はじめに

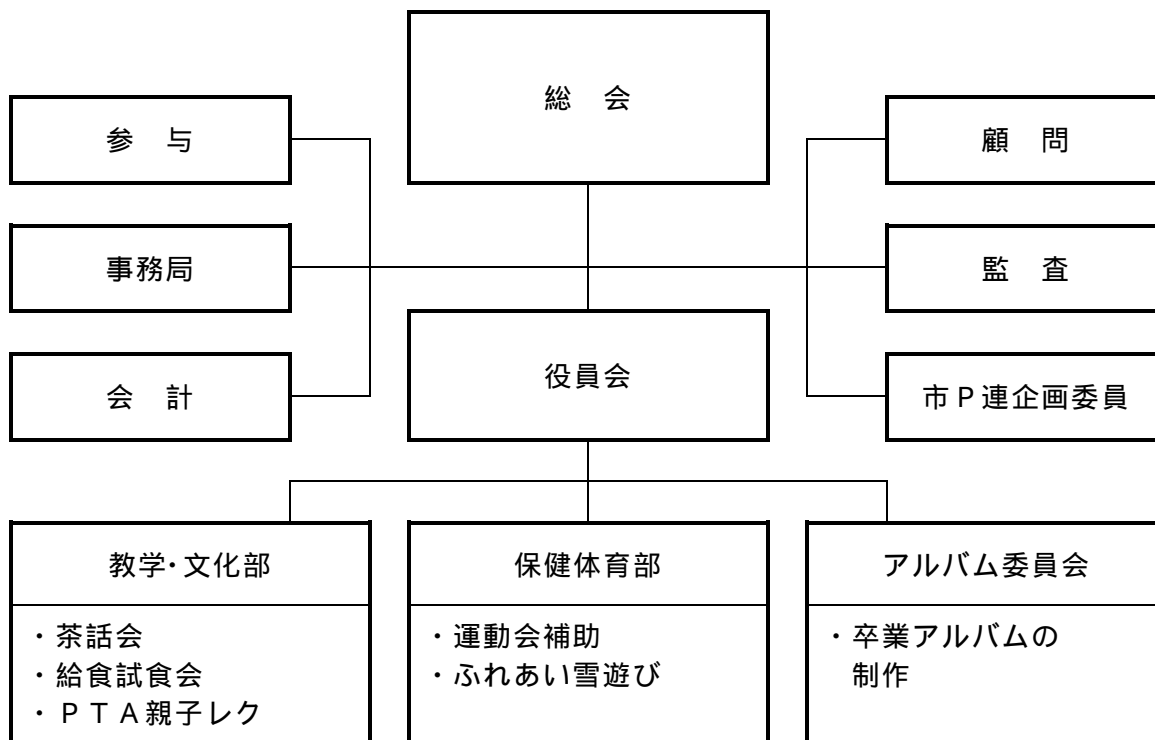
本校は、鉄のまち室蘭市の北部、市街地より 10 km程離れた丘陵地帯にある、一部複式4学級、全校児童 21 名の極小規模校である。児童数の減少に伴い、昭和 53 年度より特認校制度を導入し、市内で唯一の特認校として、多くの児童がスクールバスで市内全域から通っている。

校名は、アイヌ語の「キモンタイ(山の方の大森林という意味)」から名付けられている。文字通り自然豊かな地域で、エゾシカ、エゾリスなどの動物や、ヒヨドリ、シジュウカラ、カッコウなどの鳥類を頻繁に見ることができる。こういった恵まれた自然環境を生かし、花や作物の栽培や地域の散策活動を通して、情操教育に力を入れている。また、少人数のメリットを最大限に活かし、個に応じた指導を充実させている。

児童の多くが区域外から本校を選択して通学させている状況から分かるように、保護者の学校に対する意識は高い。そのため、PTA活動も積極的で、学校運営に大きな影響を与えている。ここでは、そのことを中心に紹介する。

2 PTA 組織と主な活動

本校のPTA組織は以下ようになっており、組織図下段の「教学・文化部」「保健体育部」の2部と、「アルバム委員会」の1委員会を中心に自主的な活動をおこなっている。



〔PTAへの協力依頼事項〕

- ・資源回収
- ・遊具の補修
- ・球根植え
- ・球根掘り
- ・花苗植えなど

3 積極的活動がもたらすもの

(1) PTAによるPDCA

本校の子どもたちは、優しく、思いやりがあり、学習に対しても積極的であるが、それ以上に本校の保護者は大変積極的である。PTA活動は、資源回収や遊具の補修といった学校側からの協力依頼に応えてくれるのはもちろんのこと、2部会1委員会を中心に、自主的に運営している。茶話会や親子レクなど、「今度 やりたいんですけど！」と学校側に打診してくるなど、保護者側が自ら企画し運営している。右上の写真は、今年度行った教学・文化部主催の親子レク「1000年の木を見つけに行こう」の1シーンである。案内の印刷から参加者のとりまとめ、ガイドの依頼、当日の運営など、全てを部内のリーダーを中心に保護者が行っていた。また、特認校としての募集チラシも、子どもの出身園を中心に保護者が配布しに回ってくれる。アルバム委員会では、6年生の保護者が中心となり、「我が子にこんなアルバムを贈りたい！」との思いから、写真の選定、アルバムの構成、業者との交渉まで行っている。他校で悩みの種となっている役員選出も、誰がどこに所属するかで議論することはあるが、なり手がなく沈黙が続くようなことは皆無である。共働き家庭が多いのは本校保護者も同じであるが、保護者側に「やらされている感覚」はなく、「やるのが当然」という意識で、PTA活動に取り組んでくれている。さらに、一つの行事が終わる度に保護者側でアンケートを実施し、部内で反省をし、次年度の計画に素早くつなげている。



教学・文化部主催「親子レク」

(2) 地域への波及

学校所在地は、市街地から離れていることもあり、過疎化や高齢化が進んでいる。しかし、この保護者の積極性は、学校だけでなくこの地域にも波及している。地域の二大行事である「春の花見」や「秋のお祭り」には、地元の保護者・児童だけでなく、区域外の保護者・児童の大半が参加してくれている。そのことにより、参加者は大きく増え、若い世代が多くなることから活気にあふれた行事になっている。高齢者が多く、年々参加者の減少に悩む町会にとっても、モチベーションアップにもつながっている。

(3) サポーター

今年度から市教委の方針で学校運営協議会を立ち上げることになったが、もともと本校には「キラキラレンジャー」と称するサポーター集団が存在する。旧職員や卒業生、保護者を中心に、行事があれば特別にお願いすることもなく自然に集まってくれるし、遊具の補修となれば自前の商売道具を持参し、自分の得意分野を生かしながら作業を進めてくれる。そこに、若い卒業生も加わってくれるので頼もしい限りである。活動の背景には、みんなの「喜門岱 愛♥」が溢れている。

4 おわりに

本校に赴任して、まず驚いたのは、保護者やサポーターの積極的な活動である。働き方改革が叫ばれる中、有効な手段を見い出せずにいる多くの学校を尻目に、この方々のおかげで、本校職員の業務は明らかに軽減されている。「どうしてここまでやってくれるのか？」という疑問



がわくが、その人と接すると答えは見えてくる。人それぞれに思いは違えど、共通するのは「みんな喜門岱小学校が好きだ」からである。その思いを行動に移すことは、この方々にとって特別なことではなく、自然なことなのである。児童、卒業生、保護者、地域、サポーターの共通の思い、「We love 喜門岱♥」それが開校以来123年を迎えた喜門岱小学校を、そしてこの地域を支えている。